



形原町と西浦町の境に、海に面した小高い丘があります。形原城跡です。付近には北古城、南古城、東古城などの地名が残りに、かつてお城があったことを伝えていきます。形原城に住んでいたのは、松平というお殿様です。徳川家康は、若い頃、松平元康という名前でした。形原城のお殿様も家康と同じ一族です。形原松平家は、家康の六代前に分かれた家です。

形原松平家の当主は、水軍の将として、主君である徳川家康に仕え、活躍しました。関が原合戦の時には、形原松平家は、舟を出して、知多半島の先端、師崎周辺の警備にあたりっていました。

形原城をめぐるには、悲しい物語があります。形原松平家は、当初、駿河（静岡県）の今川家に従っていました。しかし、桶狭間の

## 形原城の物語

合戦で今川義元が織田信長に討たれた後は、今川家の下を離れることにしました。それに対し怒った今川家は、見せしめとして、形原松平家から預かっていた人質を処刑することに決めました。時は今から約450年前のこと―舟に乗せられ、形原城のすぐ前まで連れてこられた人質が、今川方の手によって舟の上で無残にも串刺しにされてしまったと伝えられています。

形原松平家は、徳川本家の親戚として、さまざまな場面で手柄をあげました。そして、最終的には丹波の国亀山（今の京都府亀岡市）の大名となりました。江戸時代には、形原松平家から老中が出るなど、幕藩体制のもとで名家として栄えました。



現在の形原城跡の様子



日本の生きた化石代表 カブトガニ

## 何億年も、ずっと同じ

現在、科学館3階の円形展示室でミニ企画展「生きた化石〜太古から変わらぬ生き物たち〜」を開催しています。そこで、今回は生きた化石と呼ばれる生き物についてのお話です。

生きた化石とは、太古から姿かたちを変えることなく、現代まで子孫を残し続けている生き物たちのことです。長い歴史の中で、近縁種がほとんど絶滅してしまったような珍しい生き物などもそう呼ばれます。有名なものは、シーラカンスやカブトガニなどです。

私たち現生人類の歴史はたった20万年ほどなのですが、生きた化石たちの中には何億年も歴史を持つものもあります。恐竜と同じ時代を生きたものや、もっと古い時

代から変わらない生き物もいるのです。

実は、蒲郡にも生きた化石が生息しています。それはナメクジウオという生き物で、約5億年前のピカイアという動物によく似た姿をしています。ミニ企画展ではナメクジウオの標本を、科学館の常設展示ではピカイアの化石を展示しています。ぜひ、両者を見比べてみてください。

科学館の常設展では、ピカイア以外にも生きた化石の親戚にあたる生き物の化石や、生きた化石自身の化石を展示しています。ぜひ時間を見つけて科学館へ来て、現在を懸命に生きる生き物たちの裏に隠された、壮大な歴史を感じてみませんか。

なお、もっとも身近な生きた化石は、なんとゴキブリです。今回のミニ企画展を見ると、ゴキブリがただ気持ち悪いだけの虫ではなくなるかもしれません。

